

愛するおかが街を

およそ800人が住む（10月末現在）対馬の北西部、上県町佐須奈地区。

人口減少や高齢化問題を抱え「かつての賑わいが去り、元気がなくなっていく地域を何とかできないか…」今、佐須奈地区では地域の人たちが立ち上がり、10年後も安心して暮らすことができる街づくりの活動の輪が広がっています。

人と人を結んで地域を元気にしたいと取り組むボランティアグループ「もやいの会 佐須奈」の活動を紹介します。



次世代に

『もやいの会 佐須奈』の活動

佐須奈地区は、江戸時代に北端の鰯浦地区と並び、朝鮮渡航のための港に指定されており、寛文12（1672）年には、出入国管理と密貿易を取り締まる役所として「船改番所」ふねあらためばんしよが設けられました。朝鮮通信使一行も数回、佐須奈に入港しており、享保4（1712）年に来日した使節は、佐須奈港の美しい風景に感嘆したことが記録に残っています。

近代以降には、佐須奈村役場（仁田村との合併後は上県町役場）が置かれ、国や県の出先機関も複数置かれていました。商店街もあり各地から多くの人が買い物に訪れたほか、佐須奈港に大きな貨物船が入るなど、活気にあふれていました。

しかし、佐須奈地区で生まれ育ち、郵便局員として地域と関わってきた日高光博さんは、人口減少により徐々に元気がなくなっていく中、地域を何とかしたいという思いを強く抱いていました。その第一歩として日高さんは「花を見て腹を立てる人はいないだろう！」と10年ほど前、10本の河津桜を知り合いの庭先などに植えました。すると、地域の人たちから好意的な反応が返ってきました。日高さんは地域の人たちを誘って、花を植える活動を広げていきます。その活動は年々広がり、地区の道路沿いや川沿いに河津桜を植える活動に発展します。回を追うごとに参加する人たちも増え、地域の活動として行われるようになりました。河津桜のほかにも、ツツジやアジサイ、ヤマボウシなど多種にわたります。また、地域が集まって活動することで、個人ではできなかつたり、やりづらかったことが、できるようになったことも、活動を広げる力になり、参加者からは「昔を思い出した」と喜びの声が上がりました。

かつて、佐須奈地区では田植えや稲刈りなどの農作業を協力して行う「かたより」と呼ばれる仕組みがありました。みんなが集まって家々の農作業をこなすことで、重労働を分担して行うことができたのです。地域の活動に参加する人たちの姿を見て、みんなで集まったの食事など楽しみも多かった「かたより」を思いだし、日高さんはこの活動をもっと広げていこうと決意しました。そして、その思いに共感した40歳代から80歳代の50人ほどで「もやいの会 佐須奈」が発足しました。



①昭和20年代後半から30年代、佐須奈港で遊ぶ子どもたちと佐須奈の風景（上県地区公民館展示物）③桜を植えて記念撮影（平成20年）④多くの住民が参加した桜の植樹（平成21年）

人と人を結んで地域を元気に

「もやいの会 佐須奈」の「もやい」には、人と人を結び、みんなで協力して地域のために行動するという意味を含め、ロープの「もやい結び」から名前が付けられました。モットーは「明るく楽しく一日一善」それぞれができることを取り組む活動がスタートし、現在、30歳代から80歳代までの59人が所属しています。

活動内容は「地域のためになること」。花木の植栽、道路や港および公園などの環境整備、高齢者の見守りやイベントの運営などと幅広く、令和元年台風17号で被害を受けた道路や神社などの後片付けも率先して行いました。

また、会の発足間もない平成25年には、佐須奈小中学校に佐護小中学校の児童・生徒が編入する際受け入れる側となった佐須奈地区として、喜んで学校に通って来てほしいとの願いを含めて、対馬産の木材でイスを作ることを企画しました。新学期が始まった4月に新たな仲間同士で協力してイスを組み立てる姿は、子どもたちだけでなく、地域の人たちにも喜びと希望を与えました。

また、夏休みに対馬市が実施している「こども寺子屋」では、自習やレクリエーションの支援を通じ、子どもたちに地域の良さを伝える取り組みを行っているほか、もやいの会が取り組む希少動植物の保全活動などを子どもたちに知ってもらうために観察会なども行っています。



- ①防護柵の設置 ②地域の子もたちとウラボシシジミの保護活動
 ③道路周辺の掃除 ④災害後の後片付け ⑤中学生との門松づくり
 ⑥子どもたちの勉強を見る会員 ⑦イス作りで打ち解けあうきっかけづくり ⑧2年前から始めたエゴマ栽培



富 茂人 副代表

お世話になった佐須奈に恩返ししたい

私は、日高さんと同じ郵便局員として佐須奈郵便局などに勤務していました。かつての佐須奈はとても活気があったのをよく覚えています。町のソフトボール大会には、各職場や漁師さん、林業や農業に従事する人たち10チーム以上が出演し、昼もですが、夜も街に繰り出して大いに盛り上がりました。

そんな時代の佐須奈から半世紀がたち、どんどん元気がなくなっていく姿を見るにつけ、何かできないかという思いが強くなってきました。

そんな折、郵便局の先輩だった日高さんの活動に賛同して今に至ります。仕事でお世話になった佐須奈に何か恩返しができるほど活動を続けています。

「誰かがやる」ではなく「自分たちがやる」を実践する人たちです

外部集落支援員として、もやいの会の皆さんと関わらせていただいています。地域の再生や街づくりを「誰かがやるのを待つ」のではなく「自分たちができることをやってみる」という思いがとても強いと感じています。代表の日高さんや役員の方々が会員や地域の皆さんをうまくまとめて活動されていることが大きいと思います。

皆さんは、これまで地域に支えてもらった恩返しをしたいと、いろいろなジャンルで幅広く活動されていますが、少しずつの積み上げが、大きな成果を生んでいるのではないのでしょうか。これからも側面から協力できればと思っています。



外部集落支援員 菅田 奈緒美 さん



日高 光博 代表

愛するわが街を次の世代へ

このままでは、愛するわが街が消えてしまうかもしれない…。どげんかせんといかん！という思いで始めた活動も、たくさんの人たちに支えられて続けてこれました。

佐須奈は朝鮮通信使が海を越えて降り立った街であり、北部対馬の行政の中心地として賑わった街でもあります。人口減少や高齢化

といった問題が地域を覆う今、私たち住民が協力してできることをやれば、新しい街の魅力を育てることができるのではないのでしょうか。10年後も安心して暮らすことができる街づくりのためにこれからも、老若男女問わず共に手を取って街づくりに取り組んでいきたいと考えています。そして、この活動を次の世代につなげていくことも考えなくてはと思っています。子どもたちや若い世代に、地域の素晴らしいところを伝えていき、私たちが愛するわが街のバトンをどのように渡していくのがこれからの活動の大きな課題です。

祝!!
受賞



今年5月には、県内各地において地道な文化活動を続け、地域文化の向上と発展に貢献している個人や団体に贈られる「長崎県地域文化章」を受章しました。もやいの会が取り組むさまざまな活動のうち、子どもたちが竹細工や伝統的な遊びなどに触れる機会を作り、地域の文化や歴史を次世代に継承する取り組みを行っていることが高く評価されました。

様々な活動を精力的にこなす『もやいの会 佐須奈』の皆さんは、自分たちが住む地域を元気にするために必要なことを、無理なく続けることを大切にしています。活動を続けることで、人のつながりが生まれ、新たな街づくりが進んでいくのではないのでしょうか。

皆さんも地域の良いところを見つけ、できることから始めてみましょう。